Asia-Pacific Traditional Nursing Conference と日本の方向性

富山医科薬科大学医学部看護学科 教授
永山　くに子

【スライド-1】

スライド-1

近年、医療全般の方向性の一つとして、西洋医学に加えて、いわゆる補完代替医療に代表される東洋医学による療法、例えば漢方薬や、ツボ療法、さらにアロマセラピー等への関心の高まりがあります。

今般、私は、本年5月韓国ソウルで開催されたAsia-Pacific Traditional Nursing Conferenceにおいて、日本におけるTraditional Nurseに関する状況を報告する機会を得ました。ここにその一部の紹介と、今後の日本におけるTraditional Nursingの方向性について、若干の私見を述べさせていただきたいと思います。

【スライド-2】

スライド-2

これまでの日本の医療システムは、西洋医学をもって一元化され現在に至っています。そして、医師がいわゆる漢方薬の処方などを行うことについて法的にも保護されています。一見、日本では当たり前のように見えるこの制度を、アジア諸国では、西洋医学とは別に伝統医学を専門とする医師の資格を得て医技を行うことすら認めていない国もあります。韓国、中国のように西洋・東洋の両資格を持っていても医技を行うことすら法的に規制がある国もあります。日本のように、伝統医学と西洋医学を医師並びに看護師が臨床に応用することが可能な国は、世界的にみても例外的と言えましょう。近年、欧米ではこの医療システムをめぐり大胆な医療、医学教育の転換が行われていることも事実です。

【スライド-3】

Asia-Pacific Traditional Nursing Conferenceの紹介に入りたいと思います。

本年度、韓国で開催されたAsia-Pacific Traditional Nursing Conferenceの参加国は、スライドに示すように、中国・台湾・タイ・シンガポールそして日本、さらにオブザ

ーバーとして米国・チベット計7カ国でした。

主な報告内容は、中国・台湾のSino Medicineを基本とした看護実践報告、韓国からはKorea Medicineをベースとした看護診断方法や看護技術の紹介、また、タイでは主に西洋医学から見放されたと思われるエイズ患者へのモグサ等による疼痛緩和や癒しを中心としたTraditional Nursingが紹介されました。さらに、チベットの報告は主に鍼による治療が紹介されました。米国プリンストン大学の助教授は、ますます需要が高まる米国における補完代替療法の実体と、看護の方向性が報告され、その背景に国民医療費削減の方略や、国民健康保険制度との関連性が説明され、同時にこのTraditional Nursingの重要性をかなり強調し説明されました。

スライド-3

【スライド-4】

続いて、このConference において報告した日本の実情について紹介したいと思います。

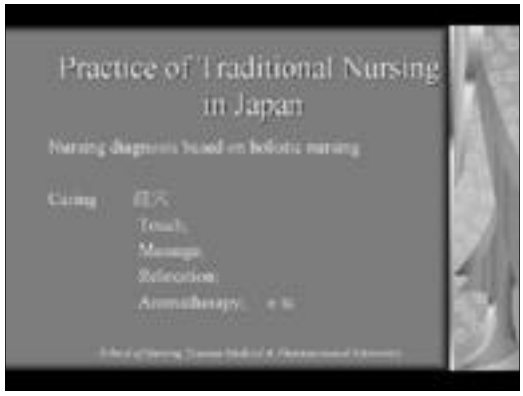
本邦におけるTraditional Nursing の実績の多くは民間療法の実践として位置付けられています。中には、民間において伝統医療のセンター化が進んでいるところもありました。他方、研究分野は全体の比率からしても少なく、一方、看護教育に至っては、その内容が未だ非科学的だという面も強調され、比較的消極的な傾向がみられました。

スライド-4

【スライド-5】

実際に行われている民間療法の看護を分析すると、看護の対象をホリスティックに観ることによって看護診断に活用されているものが多くみられました。また、具体的な看護技術等のケアに活用されているものも多く見られました。例として、ツボ療法による便秘の改善や、更年期障害への薬物、マッサージ、レラクゼーション等への対応、さらに、アロマセラピー等が多く見られました。

スライド-5



【スライド-6】

本邦における文献検索の結果、比較的多く研究に出てきた経穴について、2000年から2004年の過去5カ年に日本の学会等で発表されたものを見てみました。医中誌Web版からの検索の結果、22編の論文が抽出されました。研究論文の種類は、原著論文15編、総説が3編、資料が4編等で、医療・看護の分野からしてもかなり少ないという印象が残りました。

スライド-6

【スライド-7】

同様の検索方法でマッサージについて見てみると、過去20年間における原著論文は30編。それを看護の5領域で区分してみると、基礎看護学4編、成人・老人看護学の分野では14編、母子看護が8編、地域看護1編で、主に成人、母子の領域に多く報告が見られたということがわかりました。

スライド-7

【スライド-8】

次に、本邦の看護教育課程の中、つまり、卒業要件単位の中にTraditional Nursingに関する科目、特に必須科目、選択科目を設定しているところがないかということを調査いたしました。その結果、ほとんど見受けられません。唯一、本学が「和漢医薬学入門」（必須科目）そして「東洋の地に根ざした看護」（選択科目）という科目を設定していることがわかりました。

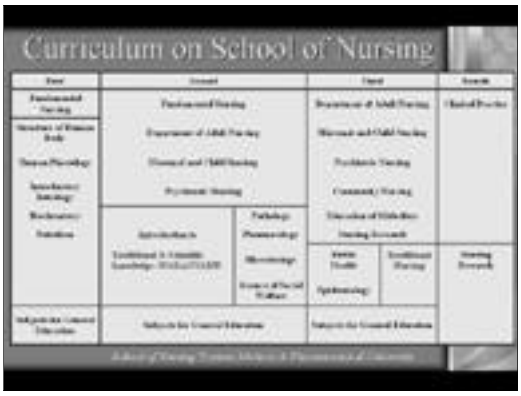
富山医科薬科大学は、1975年に東洋医学と西洋医学の融合を建学の理念として創設された医科薬科大学です。1993年には看護学科が増設されて、現在に至っております。

スライド-8

【スライド-9】

このスライドは看護学科カリキュラム

スライド-9



です。「和漢医薬学入門」を2年次に、さらに3年次に「東洋の地に根ざした看護」を設置しております。

【スライド-10】

ここで、「和漢医薬学入門」につきまして、その内容の一部を紹介します。

この科目は、本学医学科、看護学科、薬学科の全学生が履修する科目です。担当教員は医薬部、薬学部計14名の教員によって行われています。

一般教育目標（GIO）はスライドに示すとおりです。

【スライド-11】

行動目標（SBOs ）につきましてはスライドのとおりです。

スライド-10

スライド-11

【スライド-12】

このスライドは、今年4月、「和漢医薬学入門」を受講した看護学科４年次生（60名）を対象としたアンケート調査の結果です。

多くの学生は、スライドに示すように、本学独自の教育課程で学ぶことの意義をよく理解し、かなり関心度が高いということがわかりました。従いまして、学科目で修得した内容がその後の専門性へと繋がってゆくことが期待できると考えております。

スライド-12

【スライド-13】

以上の報告を踏まえ、今後、紹介した国際会議より得た予備知識をベースとし、社会のニーズとして、将来、伝統的看護にも精通した、つまり東西融合型看護が実践できる看護職の輩出が期待されることに鑑み、東西医学の融合を目指した看護学教育モデルを創設することを考えています。

そのためには、共通認識に必要な用語の規程、医学・医療の専門領域での言葉の定

義が重要なるであろうと考えています。

また、臨床で活用されてきた、ターミナル期における「癒し」の課題や、和痛を目的とした、アロマセラピー、ツボ療法、等に関するEBN・EBMを作り上げるための研究が重要な鍵をにぎっています。

スライド-13

一方、Traditional Nursingに関する看護関係の学会を見ても、この領域の学術集会等は発足しておらず、今後その点についても関係機関と協議しながら検討していきたいと考えております。

なお、2008年には富山薬科医科大学においてAsia-Pacific Traditional Nursing Conferenceが開催の予定です。従いまして、本学科が中心となり、研究教育をより発展させていきたいと考えております。

最後になりましたが、このような報告の機会を与えていただいた、ファイザーヘルスリサーチ振興財団の関係者に厚くお礼申し上げます。